

5 絆をつくろう。

現在は、様々なサービスがお金で買えるような時代になり、人に頼ったり、他人の生活に干渉することを避ける傾向になっています。

しかし、それでも人はひとりでは生きていけない存在です。だからこそ、時には周囲に「甘える勇氣」も必要になるのではないのでしょうか。小さなことでも困ったことがあったら、周りに聞いてみてはどうでしょう。

かつて、家で醤油などの調味料が切れてしまったとき、わざわざスーパーに買い物に行かなくても、隣の家「貸して」と言って借りることは、頻繁に見られた光景だったと思います。夫婦共働きで子どもを育てている家庭が、ちょっと近くに出かけるときなど、ご近所の家に子どもを預かってもらうことも多かったのではないのでしょうか。

隣近所で気軽に色々と話せて頼める関係になって、人知れずお互いを思いやる関係が地域で出来上がってくれば、暮らしやすい地域になると思います。

【事例：ご近所の有志による見守り・助け合い活動】

佐倉地区の栄町町内会には、有志によりご近所同士の支え合い、助け合い活動を行っている「なごみ会」というグループがあります。「なごみ会」では、毎月1回町内会集会所に集まり、サロンのようにおしゃべりをする中で、ご近所同士の情報交換をしています。

家の建て替えに伴う引っ越しで荷物整理に困っている会員がいた時、なごみ会の仲間が荷物の整理やゴミ出しの手伝いをしてくれて、助けられたとのことです。普段から近所で声を掛け合って、押しつけではなく、気持ちよくさらりと行動できる関係を大切にしているとのことでした。

また、町内会、子供会と連携して、世代間交流会や餅つき大会を実施したり、最近では、地区の民生委員が会員になってくれたことで民生委員との連携も出来ているとのことでした。



<なごみ会の様子（栄町集会所）>